



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペり日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/27 (月)	+ 700	+ 40,900	+ 41,600	国庫短期証券発行・償還 (3M) 地方公共団体への貸付	国債補完供給 + 46,200 CP等買入 ▲ 500		日: 景気先行CI指数 (1月) 英: 中銀総裁、講演
3/28 (火)	▲ 1,000	+ 7,000	+ 6,000				日: 黒田総裁、FIN/SUM2023 (金融庁など主催) で挨拶 米: 消費者信頼感指数 (3月) 英: 中銀総裁、SVB銀行巡り証言
3/29 (水)	+ 1,000	▲ 7,000	▲ 6,000	国債発行 (40年)			
3/30 (木)	▲ 1,000	+ 34,500	+ 33,500	年度末諸払い			米: GDP (4Q) 米: 新規失業保険申請件数 (3月25日終了週)
3/31 (金)	+ 1,400	+ 56,000	+ 57,400	年度末諸払い	新型コロナ企業金融支援 ▲ 81,378		日: 住宅着工件数 (2月) 日: 鉱工業生産 (2月) 米: ミシガン大学消費者マインド指数 (3月) I=0圏: ECB総裁、講演

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初533兆7,500億円から始まった。その後、国債・国庫短期証券買入れオペや財政等要因により増加し、週末となる24日には540兆1,000億円 (速報) となった。

無担保コールON物は週を通して堅調な地合となった。同加重平均金利は週初、▲0.015%から始まったものの、その後は調達意欲の高まりから上昇基調を辿り、週末3日積みとなる24日には▲0.009% (速報) となった。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.008%~▲0.005%程度の水準で出合が見られた。

来週の予定は、国内では、黒田総裁、FIN/SUM2023 (金融庁など主催) で挨拶(28日)などがあり、海外では英中銀総裁、SVB銀行巡り証言 (28日)、ECB総裁、講演 (31日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCIは週初▲0.095%の出合いから始まり、週央まで▲0.095%~▲0.085%のレンジで推移した。23日の取引以降はレートが低下し、▲0.12%~▲0.11%の出合いが中心となった。

SC取引は2年435~444回債、5年146~155回債、10年350~369回債、20年179~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

<CP>

今週の入札発行総額は約7,200億円で、週間償還額 (約9,800億円) を下回った。発行市場は、石油製品や電気機器、不動産等の業態で大型案件が見られたものの、案件自体は少なく、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の26兆9,849億円から23日時点で26兆8,711億円と減少した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。一方で、発行残高が積み上がっている銘柄や期間の長い発行等を中心にややレートの上昇も見られた。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (約5兆1,000億円) を含み、約6兆円となっている。発行市場は、一般事業法人による決算期末の有利子負債削減のため、大幅な償還超えとなると思われる。期明けからは、一般事業法人の発行再開が見込まれるものの、本格化は4月中旬以降を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。28日にCP等買入オペが4,000億円程度オファーされる予定となっている。

<TDB>

3月24日の3M (1147回債) の入札は、最高落札利回り▲0.2214% (前回債▲0.2214%)、平均落札利回り▲0.2292% (前回債▲0.2437%) となった。

来週はTDBの入札は予定されていない。